

## 議 事 録

- 1 名 称 平成27年度 第3回 石岡市都市計画審議会
- 2 開催日時 平成27年12月22日（火） 午前9時30分～11時
- 3 開催場所 石岡市役所 本館 大会議室
- 4 出席者氏名 北郷委員，大澤委員，塚谷委員，岡野委員，関口委員，島田委員，石井仁委員，森田委員，長谷川委員，神生委員，菊地委員，高野内委員，足立委員，野口委員
- 5 議 題 石岡市都市計画マスタープランの策定について（継続審議）
- 6 議事の概要 議事録のとおり
- 7 担 当 課 都市建設部都市計画課

### 8 議 事 録

#### (1) 開会

- ・都市建設部長挨拶
- ・出席者数が規定の定足数に達していることを報告（委員18人中14人出席）

#### (2) 議事

##### ■会長

議事に入ります前に，本日の会議の議事録署名人を指名させていただきます。A委員とB委員にお願いしたいと思います。

本日の審議事項は，継続審議中の「石岡市都市計画マスタープランの策定について」です。それでは，内容について事務局から説明願います。

##### ■事務局

まず説明に入ります前に，市民アンケート調査の実施状況について御報告いたします。調査票につきましては，無作為で抽出した市民3,000人の方々に対して，平成27年11月10日に発送いたしました。本日までに913通の御回答を頂いております。回収率は30.43%となっております。

では，審議事項であります都市計画マスタープランの内容について御説明いたします。現在の進捗状況といたしましては，マスタープランの導入部分となる全体構想の内容を検討してい

るところです。

今回の都市計画審議会に当たり、全体構想の一部につきまして素案を作成しましたので説明させていただきます。

都市計画マスタープランにつきましては、都市計画法第18条の2に基づき策定するものであり、市が定めるまちづくりに関する基本的な考え方を示すものです。

マスタープランの構成といたしましては、市全体の構想を定める将来構想、地区別の構想を定める地区別構想等で構成されています。

改訂の背景といたしまして、平成20年度に策定した現行のマスタープランの目標年次が平成28年度となっております。また、近年の社会経済情勢の変化が都市を取り巻く環境を大きく変えていますので、こうしたことを踏まえ持続可能なまちづくりを推進するために都市のあるべき姿を見据えて改訂を行います。

都市計画マスタープランの位置付けとしましては、上位計画に石岡市の総合計画、県の都市計画区域マスタープランがあります。

策定された都市計画マスタープランは、市の個別の都市計画決定や部門別計画を定める際の根拠となります。

新たな都市計画マスタープランの目標年次につきましては、基準年次を平成29年度として、そこから概ね20年後を目標に計画づくりを行いたいと考えています。この間、社会経済情勢が変化し、都市計画に影響が出ることが予想されますので、内容につきましては随時見直しを検討してまいりたいと考えています。

続きまして、本市を取り巻く環境の変化といたしまして、大きく分けて4点上げさせていただきます。

1点目としまして、人口構造の変化があります。既に日本は人口減少社会を迎えており、今世紀半ばには1億人を割り込むことが予想されています。また、合計特殊出生率につきましては、人口維持に2.08が必要といわれておりますが、平成20年から平成24年までの国の合計特殊出生率が1.38、石岡市については1.35となっております。平成22年の石岡市の高齢化率は、25.5%で、4人に1人が65歳以上という状況です。

2点目としまして、低炭素まちづくりの推進があります。深刻な地球温暖化問題への対応として、過度に自動車に依存せず歩いて暮らせるまちづくり、地球環境にやさしいまちづくりを進める必要があります。

3点目としまして、安全・安心社会の構築があります。平成23年に発生した東日本大震災では石岡市は震度6弱を記録し、建物倒壊や液状化、道路に亀裂が入るなどの被害がありました。

また、平成27年に発生した関東・東北豪雨では恋瀬川などが越水し、道路冠水や床下浸水などの被害がありました。こうした自然災害の脅威は増しており、そのための避難場所や避難経路の確保のほか、地域の人たちが協力して防災に取り組んでいくことが重要になってまいります。

4点目としまして、厳しい財政状況があります。市民ニーズが多様化し、市民サービスの更なる向上を目指していく必要がある一方で、社会経済情勢が低迷する中では財源を確保していくことが難しい状況にあります。今後のまちづくりにおいて、いかに効率良く投資を行い効果

を出せるか、また、民間活力をどのようにいかしていくかなどを考えながらまちづくりを行う必要が出てきております。

続きまして、都市の現況について御説明いたします。石岡市は都心から約70km、茨城県のほぼ中央に位置し、JR常磐線、常磐自動車道等が通る交通条件の良い位置にあります。

また、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然資源、歴史ある街並みなど、地域資源に恵まれた市でもあります。

人口につきましては、平成7年のピーク時に83,398人でしたが、平成22年には79,687人となりました。平成37年には70,372人まで減少すると予測されています。

産業につきましては、第3次産業の人口が増加の一途をたどっている反面、農業などの第1次産業の人口は減少し続けております。

土地利用につきましては、市域の約8割が農地や山林などの自然的土地利用で占められています。八郷地区では自然的土地利用が多く、石岡地区では駅を中心とした市街地が形成され、比較的都市的土地利用の割合が高くなっています。

法規制状況では、市に線引き都市計画と非線引き都市計画という2つの都市計画が存在しております。南台などの新興住宅地では、良好な市街地環境を創出するために地区計画制度も導入されています。

中心市街地につきましては、郊外の大型商業施設の立地に伴い空洞化が進み、空き店舗が目立つようになっています。中心市街地内の人口は、昭和50年以降市全体の人口が増加している時期においても一貫して減少しております。65歳以上の人口割合につきましても、平成21年時点で市全体の23.9%に対し、中心市街地では32.6%となっており、高齢化が進行しております。

また、中心市街地の歩行者通行量は、平成13年と平成20年との比較で50%近く減少しております。

都市公園につきましては、市内に26箇所整備され、そのほとんどが整備済みとなっております。

河川につきましては、恋瀬川河口から17.23kmが恋瀬川サイクリングロードとして整備されております。

公共下水道につきましては、平成25年度時点で計画面積2,160haに対して872haが整備済みとなっており、整備率は40.4%となっております。

景観につきましては、石岡市景観条例及び石岡市景観計画に基づき、市内全域を景観計画区域として指定し、良好な景観形成に努めています。

災害につきましては、平成23年3月に発生した東日本大震災で震度6弱を記録し、建物倒壊や液状化などの被害が発生しました。また、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨では、恋瀬川などが越水し、道路冠水や床下浸水などの被害が発生しました。

道路につきましては、高速道路として常磐自動車道が通り、石岡小美玉スマートインターチェンジが開設されるとともに、国道6号、国道355号、主要地方道石岡つくば線等の道路網で構成されています。また、平成24年11月に八郷地区に朝日トンネルが開通し、土浦方面とのアクセスが向上し、利便性が高まっています。

市内の公共交通につきましては、JR常磐線、石岡を起点とするバス路線、常磐自動車道の

高速バス等がありますが、自動車への依存度が高い状況となっております。

バスにつきましては、バス路線のない地域も多くあり、こうした交通不便地域の解消、移動制約者の移手段の確保を目的とした乗合いタクシーが運行されています。

続きまして、都市計画マスタープランの上位計画について御説明いたします。まず、石岡市第1次総合計画では、「風と時が輝く“和”のまち いしおか」を将来像に掲げ、石岡駅を中心に幹線道路沿道の交通利便性の高い地区や、南台地区周辺に至る石岡市街、高浜及び柿岡の各市街地を都市核市街地と位置付け、それぞれの市街地の特性をいかにしながら都市機能の集約を進め、人々のにぎわいと交流の拠点としての整備を進めるとともに、市民の生活利便性・快適性を高めるとしています。

石岡かがやきビジョンでは、「誰もがいきいきと暮らし 輝くまち いしおか」を将来像に掲げ、茨城県の県南、県央をつなぐ交通拠点都市として、駅を中心とする交通結節点の機能強化及び市街地の整備を図るとともに、定住人口の増加を図るための良好な住環境の形成や魅力ある景観の保全に努めるとしています。

茨城県が定める都市計画区域マスタープランでは、コンパクトでにぎわいと活力のある都市拠点の形成、緑豊かな居住環境の維持向上、地域を対象とした生活利便施設の集積を進めるなど、生活拠点としての機能強化などを将来市街地像としています。

ここまでの都市計画現況の整理や上位計画に基づきまして、都市づくりの課題を8つに整理いたしました。

この中で、特に2つの異なった都市計画という部分につきましては、現在合併により特性の異なる2つの都市計画が存在していますが、これを個性と捉え、それぞれの性格に合ったまちづくりを進めていくことが重要であると考えています。また、2つの区域の連携を強化することで、石岡市として一体性のあるまちづくりを進めていく必要があると考えています。

分析した課題から、本市に求められる都市の姿としましては、石岡地区と八郷地区の中心的な拠点だけではなく、それぞれの地区の主要な既存集落を特性に応じた拠点として捉え、それぞれが有機的に連携し補完するという多核連携型のコンパクトなまちづくりを目指す必要があると考えられます。また、地域産業を持続的に発展させるために、にぎわいや交流を生み出すまちづくりも求められています。

都市のあるべき姿を踏まえまして、マスタープランにおける石岡市の将来都市像の案としまして、「(仮称)人・自然・歴史を紡ぐ 安心して暮らせるコンパクトなまち いしおか」を掲げたいと考えております。

本市には、優れた自然、歴史、文化等の地域資源が豊富にあり、既存の都市基盤等の社会資本を有効に活用しながら、量的拡大から質的向上を目指した持続可能でコンパクトなまちを形成していくものです。

また、日常生活に必要な機能を有する地区を中心としたコンパクトなまちづくりを進め、その中で、都市拠点、生活拠点、観光拠点等を位置付け、これらを利便性の高い公共交通で結ぶとともに、拠点への居住誘導を進め定住と交流を営み、それぞれの地区が持つ地域性をいかしたまちづくりの実現を目指します。

こうした都市の集約化は、地球環境での低炭素社会の構築や都市の空洞化を抑制し、公共施

設等の維持管理の軽減にもつながってまいります。

このような将来都市像を実現するために、石岡市としての個性・特性をいかしたまちづくり、豊かな自然環境、歴史・文化を保全・活用したまちづくり、快適で魅力あふれる安全・安心に生活ができるまちづくり、地域活力を創出するまちづくり、地球環境にやさしいまちづくりという5つのまちづくりの目標を設定したいと考えています。

こちらに示した図は、将来都市構造のイメージ案です。将来都市構造の中の都市拠点につきましては、石岡地区と八郷地区の中心部を示しております。ここには、交流拠点機能、生活利便機能、防災機能等を設置するとともに、居住誘導などにより都市機能集積地区としての拠点形成を目指します。

地域生活拠点につきましては、地区内に点在する主要な集落を地域生活拠点と位置付け、既存施設等を有効に活用した安全・安心・快適に暮らせる拠点形成を目指します。地域生活拠点では、あらゆる都市機能を備えるのではなく、都市拠点を中心とした市全体における役割分担に基づき、各地域の人口規模に応じた都市機能の集積・拡充・集約を目指します。

観光拠点につきましては、観光連携を図る拠点として、自然環境や既存の観光施設等を活用した地区を形成します。これにより新たな交流の場が生まれ、交流人口の増加につながります。

産業拠点につきましては、既存の柏原工業団地の集積をいかした産業誘致を図り、産業の活性化を目指します。

骨格軸につきましては、周辺都市と連携する広域連携軸、観光や交流を促す都市骨格軸、市民の生活サービスなどを支える地域連携軸により、利便性の高い、効率的な交通網の形成を目指します。

各拠点間につきましては、高齢者や自動車を利用しない市民の移動ニーズに対応するため、鉄道、バス、乗合タクシー等の公共交通網を配置・整備し、各拠点相互の連携を確保・強化してまいりたいと考えております。

資料の説明につきましては以上でございます。

#### ■会長

資料の6ページに関するスライドが出てきませんでしたが、この説明はないのですか。

#### ■事務局

資料として参考に載せてありますが、説明自体は省略させていただいたところです。

#### ■会長

分かりました。説明してほしいという意見が出た場合には説明願います。

ただいま、事務局からこれまでの計画の整理と新たにこれから作ろうとするマスタープランの基本的な方針が示されました。今日審議して決定するというのではなく、委員の皆様から素案に対する意見を頂いて、次のステップでこのマスタープランが練り上げられていくこととなります。

また、市民アンケートが現在集計中であるということで、その結果も本マスタープランに加

味されていくという流れになると思います。

それでは、御意見を遠慮なくおっしゃっていただければと思います。

#### ■ C委員

言葉の使い方ですが、将来都市像のところ、コンパクトシティを目指すということを記載していますが、実際には人口密度が低い農村地域を中心とした八郷地区と、駅を中心として人口が集中した市街地のある石岡地区という2つの地区が存在するという中で、都市計画を含めた将来都市像の言葉として、コンパクトという言葉の説明の方がいいのかなと思います。

コンパクトというと、小さく固まったというか、集約したというようなイメージがありますが、現実的には今後20年間という長いスパンで考えても、人は集約されるのではなく、広大な土地の中で点在していくということがあると思いますので、量的拡大から質的向上というところでコンパクトという言葉を使っているのだとは思いますが、もう少し説明が必要であると思います。

#### ■ 事務局

おっしゃるとおり言葉のイメージとしてはそのように捉えられてしまう部分があるかもしれませんが、意味合いといたしましては、量的拡大から質的向上ということでコンパクトという言葉を使っております。

現在、国土交通省で進めているコンパクトシティ、日本語で立地適正化ということになりますが、現在ある公共施設の再編などを進めています。点在する地区にあるものを集約して、公共施設を配置し、公共交通等を使いながらアクセスさせるというイメージです。

#### ■ D委員

コンパクトシティという言葉がありましたが、国土交通省や経済産業省が中心となり中心市街地活性化のためのまちづくり三法を作りました。中心市街地に都市的機能を集約して、中心市街地の活性化を図るという概念なので、石岡市で言えば石岡地区の中心市街地の活性化手法になると思います。この言葉で自然豊かな八郷地区まで含んでコンパクトシティと言うと、八郷地区の人は違うと感じるのではないのでしょうか。石岡地区の中心市街地を活性化する場合はいいと思いますが、これで全体を含むのは合わないのではないかという気がします。ミスマッチを感じます。

#### ■ 事務局

石岡市には線引き、非線引きという2つの都市計画がありまして、コンパクト化や集積に関しては難しい部分であると思いますが、それを個性と捉え、双方を上手くマッチングしながら都市の将来像を考えたいと思っています。

#### ■ D委員

話が抽象的すぎてよく分からない部分があります。自然豊かな八郷地区でコンパクトなまち

づくりというのは具体的にどのようなことをするのですか。

#### ■事務局

今回の案はたたき台でございますので、今後地区懇談会などで御意見を聞きながら進めたいと考えております。自然豊かなところとコンパクトシティは相まみえない部分もあるとは思っていますが、そのままにはしておけないので、都市計画マスタープランでマッチングできるような形を考えています。コンパクトシティという言葉の使い方は、今後検討させていただきます。

#### ■C委員

コンパクトなまちで締めくくっているのが、全体がコンパクトなまちに終結するようなイメージを与えてしまうので、コンパクトという言葉を使うならば、もう少し前に持っていった方がいいのではないのでしょうか。

#### ■E委員

先ほどの御意見とは少し異なりますが、最近コンパクトシティという言葉はどこでも使われています。富山市が先進的な事例ということで、見学者が絶えないということなのですが、石岡市の場合は八郷と石岡で大きく二極化しています。あるエリアを中心地区ということで例えば柿岡を捉えた場合、その周辺の部分で交通や手続、病院などがある程度集積されていて、一定の生活ができるという地域の設定がコンパクトシティではないかと思っています。コンパクトなまちづくりという観点では、非常にまちづくりの考え方としてはいいのではないかという意見を持っています。

先ほどの人口動態などのグラフが示されましたが、だいたい人口が減っていきます。旧八郷と旧石岡での人口の減少率を捉えた上で各地区での核を設定することで、そこである程度の生活ができる、余所に行かなくてもその地域の中で完結するというようなまちづくりが求められてくるのではないかと思います。

現在、パーソントリップ調査などをやられていると思いますが、常住人口というか、人口が減っていく中では、まちの中にいる人間の数が限られてくると思います。にぎわいを求めるというのは、土日や休日のイベントなどの時に、連続して来街者を迎えることによって知名度のアップなどを図りながら、にぎわいを創出していくことも考えられます。旧石岡、旧八郷でのコンパクトなまちづくりは、拠点形成という意味で必要なのではないかと思います。

#### ■F委員

資料の3ページの道路交通の中で、都市計画道路は25路線が計画決定され順次整備が進められていますということですが、25路線もあるのですか。

今後人口が減少しコンパクトなまちづくりを行っていく中で、都市計画道路を25路線整備する必要があるのか疑問しいと考えています。効果的な路線とそうではない路線の区別、整理が必要ではないかと思っています。人口減少社会では、医療福祉の予算が確実に毎年上がっていく中

で、しかもコンパクトシティという話の中で、25路線を決定しているからといって順次整備していくということはいかがなものかと思えます。

#### ■事務局

都市計画道路は25路線ございます。ただその中で完成している路線もありますし、着手していない路線もあります。着手していない路線を今後整備する必要があるのかという問題などもありますので、都市計画道路につきましては今後変更・廃止も含めて検討してまいりたいと考えております。

#### ■F委員

コンパクトシティを目指すのと、既に決まっているから事業を行うということは違うと思うので、良く検討して進めていただきたいと思えます。

#### ■会長

貴重な御意見をありがとうございました。ほかにございますか。

#### ■G委員

生活拠点ごとに拠点に合った整備を進めていくということですが、そのやり方がコンパクトであると捉えられると思えます。

コンパクトシティというと、一律に決めてしまうと捉えられますが、おそらく事務局の言うコンパクトという意味は質的向上ですから、例えば八郷でも柿岡のほかに色々な地区がありまして、その拠点の環境によって地区の特性に応じたまちづくりを行うことがコンパクトであると思えます。

コンパクトな拠点づくりを行うにしても選択と集中が必要であり、定住人口を増やすということになると、特別区域というようなものを作りながら誘導していかないと、実際に平準的に定住人口を増やそうといっても難しいと思えます。例えばある地区に関しては、居住地区として条例等を使い集中させ、ほかは順次やっていくというメリハリのある選択が必要ではないかと考えます。

#### ■事務局

選択と集中は大変重要であると考えています。交流人口ということもあるので参考にさせていただきたいと思えます。

#### ■H委員

先日、娘のところにマスタープランのアンケート調査が来ました。書き終わった後に色々話をしました。

娘はつくばに通っており、トンネルの完成は非常に喜んでます。石岡に生まれ育ち、どこが悪いというようなことは言っていません。また、せがれは土浦へ通っています。最も困った

のは過日の大雨であり、旧八郷が東西に分断されました。あそこを回れといっても若い世代は道が分かりません。

うちの娘もそういうことを考えて保育所を選ばないといけないと言っていました。ここが住みづらいということは言っていないですが、日常生活が安心・安全に暮らせることを望んでいます。林方面・園部方面から南保育所へ行っている若いお母さん方は、大雨で苦勞したということも聞いています。やはり基本的な最も敏感に感じることをメインにしていくことが大事であると思います。

八郷や石岡は住みづらいので、どうせ家を建てるならつくばにという若い世代もいます。そのような人たちをこの地域にとどめる努力も必要であると考えています。

私の話を参考にさせていただければありがたいと思います。

#### ■ I 委員

人口減少、高齢社会に向かっていくまちづくりの基本を作成しているようですが、旧石岡と旧八郷でそれぞれの条件が違います。

八郷は非線引きという中で都市計画が行われています。その中で、地域的に自然、里山、歴史的資産等を基本に考えながらまちづくりを進めていくことが必要であると考えています。色々な開発などがこれから行われる可能性があるという場合には、自然や耕作地などを守るための規制を行いながら、20年後のことを考えていく必要があると思います。

また、これから高齢化が進行する中で、耕作放棄地が大きな問題になってきますので、20年後どのようになるのかということも含めながらまちづくりを考えなければならないと思います。その辺りの考えを聞かせていただければと思います。

#### ■ 事務局

先ほども説明しましたとおり、石岡市には2つの個性がありますので、委員の皆様の御意見を伺いながら、双方が連携していくようなマスタープランを策定していきたいと考えています。

#### ■ I 委員

それと同時に、近年突発的な災害や大きな災害が発生しているので、災害を防ぐための予防のまちづくりを強く進めていく必要があると思います。

#### ■ 事務局

今回の計画の中にも安全・安心という言葉を使っています。地震はいつ来るかわかりません。記録的な大雨も毎年続いているような状況です。そういったものも含めて、防災、減災の部分にも考慮したまちづくりを検討していきたいと考えています。

また、避難所なども今後重要になると思いますので、各地域のまちづくりについても指針となるような計画にしたいと考えています。

#### ■ J 委員

石岡市のまちづくりにおける中心とは何かということを深く議論する必要があるのではないかと考えています。私も中心市街地で生まれ育っています。駅を中心にまちが発展していくというのは当然だと思いますが、説明にもありましたように主に車を使っているという状況で中心市街地が発展しないのは、駐車場など車のアクセス性が低いということに尽きると思います。

現在、車社会の中で中心市街地が空洞化しているという状況で、駅前を中心としていくことは決定事項なのか、それとも議論する余地はあるのかということがあります。海外だと旧市街といって、昔市街地だったところが象徴的な意味で観光地化され、実生活における中心地は別な場所にあるということがあります。この資料を見ると、駅前を中心とする中心市街地であるということが決定事項として進められているようですが、根本的なまちづくりにおける中心とは何か。中心市街地を活性化するという事は、住む人の増加、経済発展等を意味すると思いますが、そもそも利便性が悪い中で人をどんどん住まわせると、道が狭くなりアクセスが悪くなるということを考えると、石岡市におけるまちづくりの中で中心が何かということの説明が含まれているといいと思います。

#### ■事務局

中心市街地が駅前の今の旧市街でいいのかということですが、都市計画マスタープランの上位計画として石岡市第1次総合計画が策定されています。この中で、中心市街地として新たに整備されている石岡駅や今後整備される西側駅前広場などがあります。石岡市の総合計画でも中心という位置付けがありますので、マスタープランにつきましても中心市街地が中核を担うということになると思います。中心市街地活性化については、他部署においても色々な協議会を持ちながら検討しているところです。定住人口というよりも、空き店舗の解消や、来客してくれる方でにぎわうようなまちを目指していると私どもは捉えておりますので、それが活性化につながっていくと考えております。

#### ■J委員

駅があるから交通の利便性を高めるということはいいいと思います。ただ、商業的な活性化の意義があるのかということについて他の部署や委員会などで議論されていますか。

#### ■事務局

他の部署で中心市街地活性化基本計画というものを策定し、内容を検討しております。

#### ■J委員

勉強不足でしたので資料を当たってみます。ありがとうございました。

#### ■会長

今の御意見は、非常に面白いというか深い意見だと感じました。この内容ですと、K委員から御意見がいただけると感じました。いかがでしょうか。

## ■ K委員

今の御質問は大事な指摘であったと感じます。というのも、今回の資料はきれいな計画だと読みましたが、逆に嫌気を感じ得ない計画だと思いました。

中心市街地活性化基本計画は、茨城県では最初に認定を受けた話であります但し資料に明示されていません。今の御質問にもありましたが、知らなかったというのはどうなのかなという気がします。石岡市はたくさん計画を作っていますが、縦割りというか、相互の連携がほとんどないのかなと思いました。地方創生事業にも中心市街地活性化にも取り組まれていることと思います。地方創生事業で人口ビジョンや総合戦略を立てられていると思いますが、それとの関係はどうでしょうか。サイクリングロードも県が地方創生でやっていますが、それとのリンクはどうでしょうか。やはり縦割りすぎるような気がします。内部から今のような御質問が出ることに驚いています。なぜ認知されていないのかと思った次第です。

中心市街地のエリア取りをどうするかということはここで議論する話とは違うとは思いますが、大事なところですのできちんと連携して欲しいと思います。

2つ目ですが、内容が抽象的すぎると思いました。総花的というか、事業の優先度が付いていません。先ほどの道路の話もそうだと思います。要するに耳の痛い話が入っていません。そうすると作って終わりということになります。先ほど選択と集中という話ありましたが、優先順位をつけて構造的なことを入れないと、絵に描いた餅に終わる可能性が高いと思います。

3つ目は、先ほどコンパクトなまちづくりについての議論を聞いていてなるほどと思いました。大学でも色々議論していますが、抽象的で色々な考え方があり明確な定義はありません。ただ、今日の議論でその方向は間違いないということで概念は共有されたと思います。

理念が一番大事なところなので、やはり誤解を生じない言葉に置き換えた方がいいと感じました。経済合理性からコンパクトに持っていくというほかに、世代間の交流が生まれるであるとか温かいコミュニティができるであるとか、そういった雰囲気という言葉が入るといいと思いました。

言いたいことは、計画としてはきれいですがリアリティを感じません。横連携の話、優先順位、理念のコンパクトということについて、もう一度検討いただければと思っています。

## ■ 会長

ありがとうございました。しみじみと事務局の心の中に染み渡ったのではないかと思います。

## ■ D委員

今日話を伺って、コンパクトなまちのイメージが皆さん違うと感じました。大体大きく分けて2つあると思いました。

1つは、従来型の中心市街地活性化の手法としてのコンパクトシティで、もう1つは、限られた財源の中で公共施設などを効率的に造っていくというものです。むやみに公共事業をやるのではなく、効果のあるものをコンパクトに効率良く設置していくというもので、先ほどの話にあったように道路をやたら造ればいいのかということではなく、もっと厳選して造った方がいいのではないかとこのことです。要するに、限られた財政の中で効率的に財源を使ってコンパクト

なまちづくりを進めるという考え方と、もう1つは在来型の国が進めてきた中心市街地に医療施設、文化施設、行政施設、福祉施設等の色々な施設をコンパクトに集中させて、そこに人を集めて中心市街地を活性化していこうというコンパクトシティの在来型の概念がありますが、限られた財源の中で効率良くまちづくりしていこうというニュアンスをこの資料から感じました。

石岡には常陸国の国府があり、昔はこの辺りの中心地でしたが、最近では水戸やつくばの谷間に押し込まれ、この20年間で人口も1万人減っており存在感が落ちていると思います。石岡に住んで誇れるまちとするためには、石岡の良さを押し出す施策がいるのではないかと思います。

何が材料になるかという歴史だと思います。常陸国の中心地だったところで、国分寺、国分尼寺、東日本最大規模の国衙跡等がありますので、こういった歴史資源をもっといかしてほしいと思います。

もう1つは、八郷地区の優れた自然景観です。研究学園都市に来ている外国人の方と話をする機会がありまして、研究学園都市は西洋型のまちづくりで、大きな道路に研究所があるだけで、あのまちはつまらない、面白くないと言われます。それよりも、八郷のような自然の中に田園がある日本の農村風景が良いと言われます。つくばに来ている外国人の女性の方でわざわざ柿岡に下宿して通っている方がいました。外国の方から見ると、八郷地区はすごく良い日本の原風景だという評価もありますので、優れた自然情景をいかしてほしいと思います。

茨城の中でも存在感のあるまちになってもらいたいと思っています。インパクトのあるマスタープランとなることを期待しています。

## ■ B委員

石岡市は広報が足りないと感じました。

先日、合併10周年記念式典の際に映像が流れましたが、改めて石岡がすごいところであると感じました。まちの人たちは、素晴らしいところに住んでいるという意識がないのではないかと思います。

その後、テレビを見ていたら石岡が出ていて、石岡駅周辺の通行人が石岡にはどんなものがありますかとインタビューされていました。でも、その人はないと答えていました。その次に、近くの商店の方にインタビューしたところ、八郷地区に行くと良いものがあると答えていました。結局、石岡のまちを見ずに八郷の方へ行ってしまいました。上曾というところに、世界的にも有名なハングラライダー場があるそうで、競技会などが開催されていることを初めて知りました。

トンネルを抜けると素晴らしいとつくばに住んでいる方に言われます。直売所があって、花があって、年中果物が並んでいていいですねと言われるので、改めて石岡を見直しています。

そのためにも広報にもう少し力を入れていただいてもいいのではないかと思います。

また、駅に案内板が必要であると感じました。

## ■ L委員

前回もお話しましたが、石岡市だけ夢物語を作っても意味がないと思いますので、首都圏における石岡市の位置と茨城県における石岡市の位置について考える必要があると思います。できれば近隣市町村と都市計画について総合的に地域の方向性を定める必要があると思います。

首都圏における東京の位置というのは、オリンピックで人を集めて人口が増えていくという状況にあり、なぜそうなるのかということを考えて時に首都圏の中で石岡市はどうあるべきなのかということを考えて、自分だけで夢のまちをつくるということではなく、そういうことも考えていただけるとありがたいと思います。

#### ■事務局

貴重な御意見をありがとうございます。やはり石岡市だけではなく、広く近隣市町村と連携しなければならない部分もありますので、そういったものも取り入れていきたいと思っています。

#### ■M委員

八郷地区の土地利用規制の見直しについて、私は以前から話しています。

整備された田やまとまった畑は、農業振興地域のままでいいと思いますが、八郷は20～30軒の集落でできており、その集落の周辺の畑については農業振興地域を外すべきだと言っています。5年ごとに見直しをしている状況の中で、前回も私の意見により集落内の農振が外れましたが、まだまだ残っています。

八郷地区に魅力を感じて住みたいという方がかなりいますが、農振になっているという状況があります。農振を外すために色々な審議会に諮ってほぼ1年かかります。住めるようになるまでには2年近くかかるので、来たいと思ってもなかなか来られません。足かせは外すべきであると私は思っています。

また、行政では交流人口を増やすためにイベントを企画していますが、行政だけではなかなか進みません。私は、ウェルカム石岡実行委員会というものを今年11月に発足しました。地元の方から石岡でイベントをしてもらえないかという話がありまして、規約を作れば実行委員会ができるということが分かりました。ホームページで情報を流すと、千葉、神奈川、埼玉、栃木、群馬等からイベント参加者が200人程度はいます。その際、石岡市の施設を免税という形で無料で使わせてもらいます。私の立場であるから免税ということですぐに許可されるのかなと思いますが、私でなくても交流人口の拡大を考えている団体がいましたら、行政は積極的に努力すべきだと思います。

#### ■会長

ありがとうございました。どうぞ。

#### ■J委員

このような議論の場では、石岡のまちづくりにおいては歴史が重要であるという話が必ず出てくるとは思います。あえて言わせていただくと、石岡の歴史を前端的に押し出す姿勢というのは昔からやっていると思います。やり尽くしていると言っても過言ではないと思います。

行政や市民の方などが、石岡の歴史性を全面的に出してまちづくりを考えてきたと思います。でも、現実にはインタビューすると石岡には何もないという答えが返ってきます。

怒られるのを覚悟で申し上げますが、石岡のまちづくりにおいて歴史にこだわりすぎると、見えてこないものもあるのではないかと考えています。私は、もちろん石岡が好きで歴史も好きですが、歴史以外のもので目玉となるものを発掘する姿勢が重要ではないかと思っています。

石岡の歴史を前端的に押し出すイメージ作りはやり尽くしていると思いますので、石岡の歴史を否定しているわけではありませんが、あえて石岡の歴史性といったものとは別の観点をもっと積極的に探す姿勢が石岡のまちづくりに必要であると思います。

委員会という固い集まりではなく、様々な年代の人が集える意見会のような場で意見を拾い、具体的な意見になれば、歴史外で目玉となるようなものが出てくるかもしれません。

あえて歴史以外のものを探すという姿勢が重要であると思います。

#### ■会長

ありがとうございました。

#### ■D委員

今の意見に反論します。石岡の歴史はほかにはないものです。それをいかしきれていないことが問題です。計画の中で歴史をいかしてという言葉はよく出てきますが実現されていないので、実現していくということが課題だと思います。

石岡から歴史をなくしたら何が残るのか。国衙跡を復元していくなど、思い切った行動を起こして実現していくことが課題だと思います。

商店街にしても、看板建築が並んでおり電線地中化するなどしていますが、イベントを開催するなどそれをいかしていくソフト事業がありません。実行力がないということが課題です。

私は歴史はかけがえのないものでいかすべきだと思います。

#### ■会長

それぞれ御意見があると思います。J委員の御意見については、私には歴史を無視しろという風には聞こえていません。依存しすぎるのはいかがなものかという風にお聞きしました。

大体皆さんに御意見を伺いまして、時間も1時間半が経過しておりますので、そろそろ審議を終了させていただきたいと思います。

事務局におかれましては、今日の意見を吸い出して計画に取り込んでいただきたいと思います。

以上で本日の審議を終了します。

#### (3) 閉会